

平成20年度 第3回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成20年10月8日（水） 13:30～16:35

会 場 松嶺公民館 講堂

◎出席者

1号委員 齋藤 勝 齋藤 尚 阿部 茂 寒河江 久也 小田 和夫
今田 充代
2号委員 山中 俊 土田 迪子
3号委員 佐藤 洋子 木村 美津枝

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 須貝 彰
市民福祉課長 大場 昭一 建設産業課長 川田 進
教育振興室長 難波 富也
地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ
主任 佐藤 伸 主事 乙坂 哲也

酒田市建設部土木課

事業主幹 鈴木 良寿 課長補佐 池田 義晴

◎欠席者

1号委員 富樫 茂 須田 良 佐藤 ゆき子
2号委員 齋藤 薫
3号委員 遠田 聡

◎傍聴人 1名

◎議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議録署名委員の選出
- 4 報告事項
 - (1) 8月14日の大雨による被害状況について
 - (2) 松山統合保育園整備事業について
 - (3) コミュニティ振興組織について
 - (4) 眺海の森再整備について
 - (5) その他
- 5 協議事項
 - (1) 平成21年度地域づくり予算について
 - (2) その他

6 その他

7 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

第3回目の協議会ということで案内申し上げた。5名の委員が欠席しているが、次第に従いただいまから協議会を開催したい。ご承知のように8月14日から15日にかけての局地的な大雨災害により、特に南部地区において多くの被害があったようだが、9月定例会においてそれらに対応する施策等の審議も行われたようである。満足できる形で対応されているように思う。

今日は、その点も含めて委員の皆様から意見交換をしていただきたい。

(支所長)

大変天気の良い秋晴れの1日となった。いよいよ21年度の予算要求の作業が佳境に入ってきた。本日は4件の報告事項と、地域づくり予算について協議をお願いしたい。

9月の定例会では、市長に対して「どんな酒田にしたいか。」という地域に関わる質問があり、市長は、この地域に生まれ育った方が住み続けられ、また、戻ってこられるまちにしたいと答弁していた。雇用の確保という問題にもなると思うが、酒田市の柱がその辺にあるということになる。

松山に関係のある部分では、花いっぱい事業について見直しの時期にきていると企画調整部長も答弁している。また、会長からのお話にもあったが、ゲリラ豪雨について3人の議員が一般質問した。ただ原則的にはこういった災害においては所有者、管理者責任の考え方が大原則だということには理解していただきたい。しかし、我々としては少し課題があるのではないかという意識であるため、支所として今後の政策課題だと考えている。9月の補正予算で環境改善センターの修繕費が可決された。内容については、新たな支所と改善センターをつなぐ車路の設置、ホールの床面（タイルカーペット）の補修、ステージ幕等の交換、多目的トイレの設置、和式トイレの改修等である。利用者の利便性を考えた改修を考えている。また、改善センター建設以来ほとんど活用した事のないカウンターの撤去も行っていく。改修に関しては改善センターの使用に支障のないように対応していく。合併から3年を経過して様々な面で見直しも必要である。皆様の意見を市の政策に反映させるようにしていきたい。

議員の定数が34名から30名に減ることについても議決されたことについてもお知らせしておく。

3 議長及び議事録署名委員選出

○地域振興課長 会議録署名人の選出について協議会施行規則第5条により委員1名を選出する今回の会議録署名人を阿部茂委員をお願いしたい。

これより会議の議長を協議会設置条例第6条第2項により山中会長をお願いする。

4 報告事項・・・地域振興課長、市民福祉課長、教育振興室長、土木課事業主幹がそれぞれ説明

5 協議事項

(1) 平成21年度地域づくり予算について・・・地域振興課長説明

○小田委員 大雨の関係についてだが、松山町時代から災害時に想定される危険箇所の区域指定は行っていくのか。私としては必要だと思うが、どのように進めていくのかお考えをお聞きしたい。

コミュニティ振興組織についての方向性は了承した。しかし、再度シミュレーションを行い原点に帰るべきでないかと思う。商工会では合併になったことで、物流が変わり商工関係のコミュニティが揺らいでいるため松山だけの事業を実施することが大変難しくなった。どのようなシミュレーションを想定していけば良いのか考えていかなければならない。

眺海の森の再整備に関しては、この協議会でもいろいろ意見交換が行われているが、杉が伸びて「眺海」という目的を達成できていない感じがする。木よりも高い展望台の設置を要望する。また、さんさんで人前結婚式などを行うことも良いのではないかと思う。新たな利活用を考えていけば一歩進める感じがする。コテージの設置も行えば一年を通して利用できる。

○齋藤(尚)委員 地域づくり予算を松山への集客に使うことができれば地域が活性化すると思う。また、産業と観光の結びつきも大切である。過疎化ばかりが進み、松山地域の良さが他地域に吸い取られて平らにされている感じを受ける。松山の良さを残すための予算が地域づくり予算だと思うが、予算の組み替えできないのか。青少年国内外交流事業についてもやめてもいいのではないかと思っている。その部分を削り、新たな事業として、人の結びつきを考えた交流があってもいいのではないか。

コミュニティに関しては、核となる部分と話していない感じを受ける。私が話している核とは生涯学習についてであるが、なぜ公民館では実施できないのか、山寺では今年度2枚看板で様々な事業を行っているが、違いは感じない。

コミュニティとは何なのかはっきりと示す必要がある。将来的には4つのコミュニティ組織が1つになる可能性も踏まえながら考えていかなければいけない。平田地域協議会ではコミュニティの話し合いのために10数回会議を開催したと聞いている。松山は表面だけの議論しかしていないのではないか。この予算では、松山を作っていくといった芯がないように感じる。この場で話し合うことをしっかりと吸い上げて予算編成に向かって欲しい。

○山中会長 先ほどの説明では、シーリングはないということだった。新たな発想で、例えば、国外研修は一定の役割を終えたと考え、新規の事業を立ち上げる事は可能か。平成20年度予算の項目をそのまま要求では新鮮味がない。

○土田副会長 眺海の森の再整備が進行中であることは大変喜ばしいことだ。眺海の森には眺望の良さから多くのカメラマンが訪れている。しかし、木が眺望の邪魔をしていると聞く。また、遊歩道も日中でも暗いところがあり歩くのが怖いという声も聞くので、歩きやすく明るい遊歩道の整備をお願いしたい。眺海の森再整備関係の予算は地域づくり予算とは別なのか。

○地域振興課長 眺海の森関係の予算は地域づくり予算とは別である。

○土田副会長 アメリカの事業の予算は4,490千円とあるが、一人あたりの費用はどれくらいかかっているのか。何名参加したのか。また効果としてはどうだったかお聞きしたい。

○齋藤（尚）委員 地域づくり予算イコール人づくり予算にならないのか。昔はリーダーとなる人材がたくさんいた。今はリーダーになる人が少ない。国内外交流に参加した人などの次のステップにつながる事業に予算を使えないのか。人づくりに関しては生涯学習に変わってからうまくいっていない気がする。生涯教育と生涯学習の差が出てきている。批判になるが生涯教育の時には人が育っていた。人づくり施策をこの予算に必要であると考えます。

例えば、青年を育てる方法として、使い方を指定せず 50 万円を渡して好きな事業を行わせる事も一つである。しかし、予算は取りにくいとは思いますが。

○寒河江委員 内郷では今日まで 3 日間の通学合宿を行った。昨年は 12 名、今年は 18 名の参加だった。今年で 5 回目になるが、今年は内容が非常に良かったと思う。全て子どもたちに任せるため、この通学合宿で子どもたちはすごく成長するようである。また、子どもたちの親以外の若者も夜に来て泊まっていったようである。子どもを通じた触れ合いが大事だと考える。

○小田委員 通学合宿に関しては山形県ではだいぶ前から公民館、学校等で行っている。親は一切関わらず学校主導でやるところもあるようだ。そういった事業では、人と人のつながりができる。

○齋藤（尚）委員 金峰では受講者が指導者となって実施しており大勢の参加者がいるようだ。

○寒河江委員 コミュニティになると通学合宿のような良い事業ができなくなる可能性がある。

○支所長 この事業の予算はどうなっているのか、なぜ事業実施できなくなるのかももう少し説明をお願いしたい。

○寒河江委員 生涯学習事業に組み込まれるからである。食料費などは補助対象外と聞いた。食事代などは参加者の負担金で何とかまかなえるが、ボランティアで参加する人たちへの謝礼などにお金がかかるため、コミュニティでの実施は少し難しいと思える。

○今田委員 コミュニティの中でもいろいろなグループの事業として取り組めばできるはずである。やり方次第だと思う。

○支所長 予算の組み方に関しては、支所でも支援組織を作っているのではいろいろと助言していきたいと思う。

○阿部委員 地域づくり予算の中には、即効性のあるものや長期的な展望が必要なものなど様々である。だんだん事業が減ってきていて予算編成自体なくなるような危機感を持っている。穴が開いたところに代替のものを考えないで毎年どうするかなどと議論しても仕方ない。1年に1回の数字合わせのような議論ではなく、具体的な構想を考えていかないと地域づくりがだめになるのではないのか。少子化、高齢化とよく言われるが、言葉だけ一人歩きしそれに対応する施策を考えていない。石川県の小さな町では次三男坊政策として安い敷地に家を建てさせるようにするための融資提供などの対応をしている。また、そこに誕生した子どもの検診は無料にするなどの施策により年間で 60 人増えたそうである。次の世代を担う人たちを育てていくための施策が何もない。アメリカ国外派遣の話もだが、まちづくりとの関連性を考えると少し弱いような気もする。松山の特産品づくりについても何も見えない。

○佐藤（洋）委員 地域活性化事業で、研修会や研究会開催への補助とあるが、個人への補助か、団体への補助か。

○建設産業課長 これは商工会でイベント実行委員会を立ち上げているが、そこへの補助である。

商工会が対象となっている。

- 支所長 商工会の青年部へ補助しているもので、実際は旅行などに使われている。これが、先ほど話があった青年へのお金と考えてもらってもいい。
- 佐藤（洋）委員 平田の田園調布の中学生が農業体験にくる事業で、ホームステイを希望した家庭は松山地区から我が家だけだった。身近なところからくるのにそれにも手を挙げないのに国内外派遣事業を行うことの意義はあるのか。
- 小田委員 商工会が合併になり、委託費のない事業には取り組まない形になってきている。松山には長年やってきた能振興と砲術の事務局があるが、これは委託料を伴わないので今後、事務局体制を考えていかなければならなくなった。また、商工会の松山支所もいつ無くなるかもわからない。しかし、先ほどの能振興や砲術はコミュニティの組織さえ、きちっとしていれば市の補助があると認識している。
- 阿部委員 遊佐の文化協会は民俗芸能保存会と民謡や踊りなどの組織が二本立てとなっていて、両方が一緒に育っている。松山では芸文協に加盟していても会費納入のみでなにも役に立たない。地域が活性化する組織を作ってくれと言うが、補助金はあるが、地域の負担があることが問題である。先日の生涯学習の会議で、旧市街地の公民館地区では1世帯の負担が6千円くらいで、400～500世帯くらいの地区では1世帯あたり8千円の負担があると聞いた。
- 木村委員 いろいろなところに住んできたが、松山は人口密度が低いのでいろいろなものにお金がかかる。年間たくさんのお金を払わないといけないので、住みにくいところだと感じる。
- 阿部委員 住民からいただいた負担を事業費に使い、頑張っている姿を見せることができれば良いが、いただいたお金の半分を管理費に回さないと施設の運営ができない。そんな説明は住民にできない。
- 支所長 その意味の管理費というのは人件費のことか。
- 阿部委員 人件費も含めて全部である。消耗品費は6万円しかない。どうやって運営して行くのか。印刷機のインク代も自分たちで支払いしなければならなくなると難しい。会長の報酬も地元で負担ということである。
- 齋藤（勝）委員 コミュニティへの負担金が大きくなるのであれば、老人世帯を対象外にするかなどのお話もでている。年金を3～4万円しかもらっていない高齢者から何千円ももらえるものか。
- 齋藤（尚）委員 松山の人口はどれ位なものか。
- 市民福祉課長 和光園やさくらホームの施設も含めて5,100人位だと思う。施設を除くと5千人を切る。
- 木村委員 世帯数はどんなものか。
- 支所長 20年4月1日で1,600世帯位である。人口の減少が深刻である松山の置かれている状況は大変厳しいが、全国的にもそういった流れである。
- 市民福祉課長 出生数については、10数年前は年間50～60名だったが、昨年22・23名で今年も22・23名となっている。10数年前と比べると半数以下になっている。

15:37 休憩

- 山中会長 新年度の当地域の予算編成に向けた方向性を協議していきたい。
- 齋藤（勝）委員 花いっぱい事業について、白ヶ沢でも花苗を提供していただいているが、2列程度しか植えることができない。大沼新田では3つある交通島のうち1つは何も植えられていない状況である。場外馬券発売所の前の交通島も同じことが言える。全面芝の方がいいのではないか。
- 小田委員 先日、片町地内で1時間くらいかけて花の周りの雑草取りをした。資料館周辺の北町、片町南北、内町、新屋敷で公共的な場所を管理して行く事はできないものか。地域の人たちが実施していく仕向け方をしていないとこの事業はうまくいかないと思う。
- 阿部委員 植栽するだけでなく管理まで見通して実施しないといけない。そういうことにも対応できるまちづくりをしていかないといけない。幸い、公民館は老人クラブの奉仕作業ということで年6回も除草作業等を行っていただいている。そういった団体をお願いすることも一つの方法ではないか。
- 佐藤（洋）委員 山田1号線の改良が終わったら植えると言っていた西洋フヨウはどうなったのか。完成したら別のものが植えられていた。西洋フヨウであれば管理は簡単である。
- 山中会長 以前も除草のため2名ほど作業していたところを見た。管理が大変なのか樹木の下には黄色い花が植えられている。
- 建設産業課長 フヨウは掘り起こして乾燥させて保管している。必要な方には渡していたと思う。今の道路にはなじまなかったの、山田1号線にもう一度フヨウを植えるという話にはならなかった。
- 支所長 花いっぱい事業については、酒田市ではボランティアという観点から種と道具の提供を行い、地域的な取り組みを行っている。松山では旧町時代から町が植栽をし、管理してきたという経過がある。合併後、一市一制度という大きな流れのもと、花いっぱい事業については松山地域の特色ある事業として、地域づくり予算で取り組んできた。合併から数年が経ち、松山地域で行っている花いっぱい事業と同じような取り組みを市全域で実施する事は困難であるので、一定の見直しの時期がきたのではないかと考えている。しかし、旧市内の住民の方々からも「松山の中心部は花がいっぱいできれいだ。」と言う声を聞くので、この地域の1つの特色だろうと思っている。それをどういう形で取り組み継続していけるのか。例えば、地域の人々の応援をいただきながら取り組んでいく場合、どういう仕組みでやっていくかなど知恵を絞っていかないといけない。片町のツツジに関しては植えてある場所が高いため安全面から考えてなかなか地域では実施できないということもあった。事業の縮小も含め地域の声も聞きながら地域協議会の中で一定の集約を行い方向性を示していければと思っている。
- 山中会長 大手橋を中心に南側の上堰の花壇については荒町と本町の自治会で植栽と水掛けをしているが、大手橋より北部は業者が作業を行っている。植栽に従事する時間はたいした時間ではないが、そういう不平等感があるので検討課題としてお願いしたい。

夏まつり期間中に飾られる美人画の絵灯籠についてだが、今年は雨で灯籠流しが中止になった。絵灯籠が設置になってから撤去になるまで、絵灯籠の展示だけだと寂しい気がする。ここ

松山には伝統の能、神楽があるので新しい絵灯籠を作成する予算を要求することはできないものか。

- 小田委員 今年、夏まつりを農協のまつりと一緒に行ったが、来年についても反省会の段階でまた一緒にやっっていこうという方向で話し合っている。
- 齋藤（尚）委員 付加価値を事業に対してどうつけるかが大事だと思う。絵灯籠の展示を8月20日の皇大神社の能までなぜ延ばせないのかと考えていた。それができれば、能と祭りがつながるのではないか。
- 山中会長 下駄の産地である横手の職人から今年の能の時に出店していただいた。今は昔のように出店する店も少なくなった。子どもたちは祝儀をもらっても使うところが無い。出店などにぎわう雰囲気を作っていけば子どもたちも集まってくる。
- 教育振興室長 先ほどの青少年国内外交流事業について、いろいろとお話があったので回答したい。この事業は即効的に地域づくりには結びつかないが、子どもたちの育成という意味では大変意義のある事業だと考えている。この協議会でもアメリカの事業については、はばたき事業との統合問題で議論された。20年度の事業では、アメリカについては自己負担が16万円、1人あたりの総費用は約33万円、今年は9名派遣で来年度は受入の年である。鹿児島については自己負担が4万円、1人あたりの総費用は約8万円、今年は6名派遣で冬にはこちらに鹿児島から子どもたちがくることになっている。本市には国外派遣事業としてはばたき事業があるが、八幡、平田には国内派遣事業はあるが、国外の派遣事業はない。八幡は沖縄、平田は岐阜との交流である。旧酒田市でも沖縄とアメリカの交流事業を実施している。この事業に関しては国内外も含めてどうやって統合するか、教育委員会内部でも協議している段階である。教育委員会内部では松山のアメリカ事業の方が相互受入ということもあり、意義があるという見方もある。統合するといっても、相手があることなので簡単に統合するのは難しい。松山に関してはアメリカ、鹿児島交流とも相手があることなので簡単に廃止とはいかないと考えている。
- 木村委員 アメリカへの派遣は何日間だったのか。
- 教育振興室長 10日間である。
- 土田副会長 派遣後に参加者に対してどのような対応を取っていくかが大事だと思う。
- 教育振興室長 事後研修会を行っており、行って来た感想などをアメリカ、鹿児島とも1冊の冊子にまとめる。
- 支所長 土田委員からあったが、参加した方が大人になり松山に残っていない場合が多い状況である。アメリカ、鹿児島とも地域全体の受入になっているだろうか、ホームステイ先だけの受入になっていないだろうかという心配もあるが、そこまで広げてしまった場合、受入家庭への負担が大きすぎると感じる。いつ来ていつ帰ったのかも地域では知らない場合があるので、受け入れる体制について検討していかなければならないと考えている。
- 小田委員 アメリカの受入については、ボランティア団体などとの横の連携を強くして見守っていった方が良く考える。
- 齋藤（勝）委員 大雨の被害があったわけだが、最上川橋から200メートルほど学校に向かって行った斜面の復旧工事はいつになったら入るのか。子どもたちの安全に関わることなので早急に対応してもらいたい。

- 建設産業課長 山形県が事業主体になると思うが、今、災害査定に国交省が入っているので、その査定後に復旧工事が発注になると思われる。
- 齋藤（勝）委員 今回の土砂崩れは道路の上部にある森林（雑木林）を伐採して牧草地としたために起きたようなものである。工事に入るときには表面だけの工事ではなく、今後の降雨対策も考えて側溝設置等の排水対策をしっかりとしたい。
- 支所長 牧草地となっているところは完全な私有地である。所有者責任であるためそこまで公共では入ることができない。発生する可能性は以前からずっと継続している。因果関係から問われた場合、原因は所有者にあると考えられるため所有者が復旧すべきだと考える。
- 齋藤（勝）委員 大沼新田の神社下も土砂災害の危険地帯となっているようである。崩れている部分の工事は行わないのか。
- 支所長 全体の話しにならないと思うので、あとで回答する。
- 山中会長 その他として当局ではないか。

6 その他

- 地域振興課長 次回の会議の日程だが、次回は21年度の予算説明をしたいと考えているが、予算関係なので総務常任委員会等議会に内示してからということもあり、2月の下旬に予定したい。
- 支所長 混み入った時期になると思うが、予算要求でなく、予算案で示せる時期に日程調整をして開催したい。

7 閉会・・・進行の地域振興課長が閉会する。